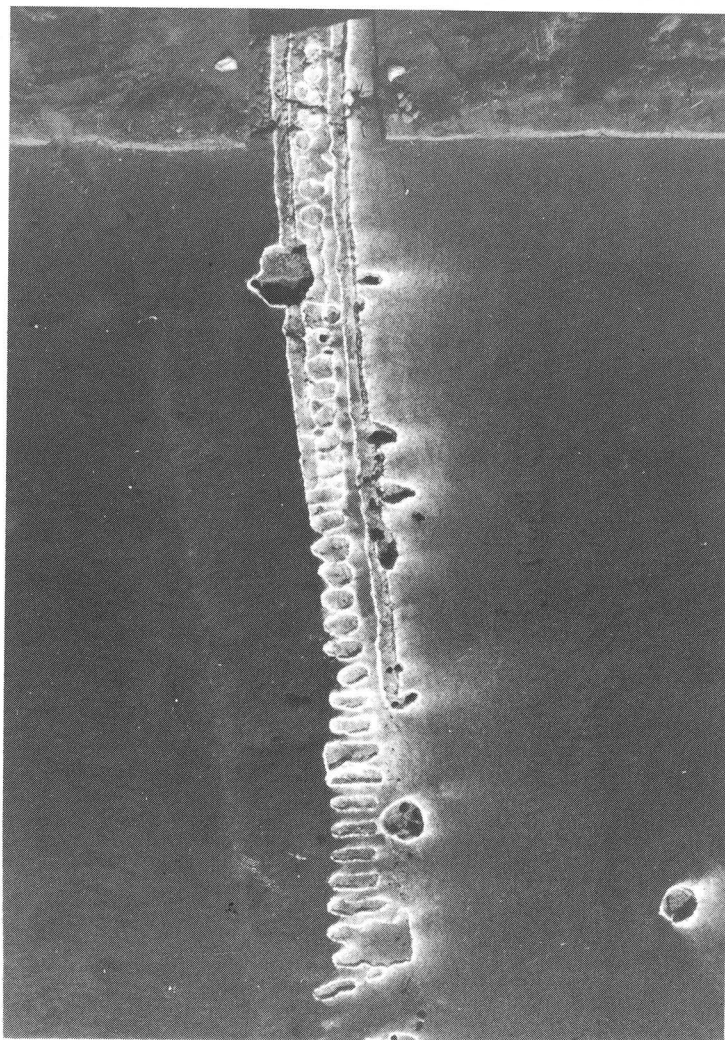
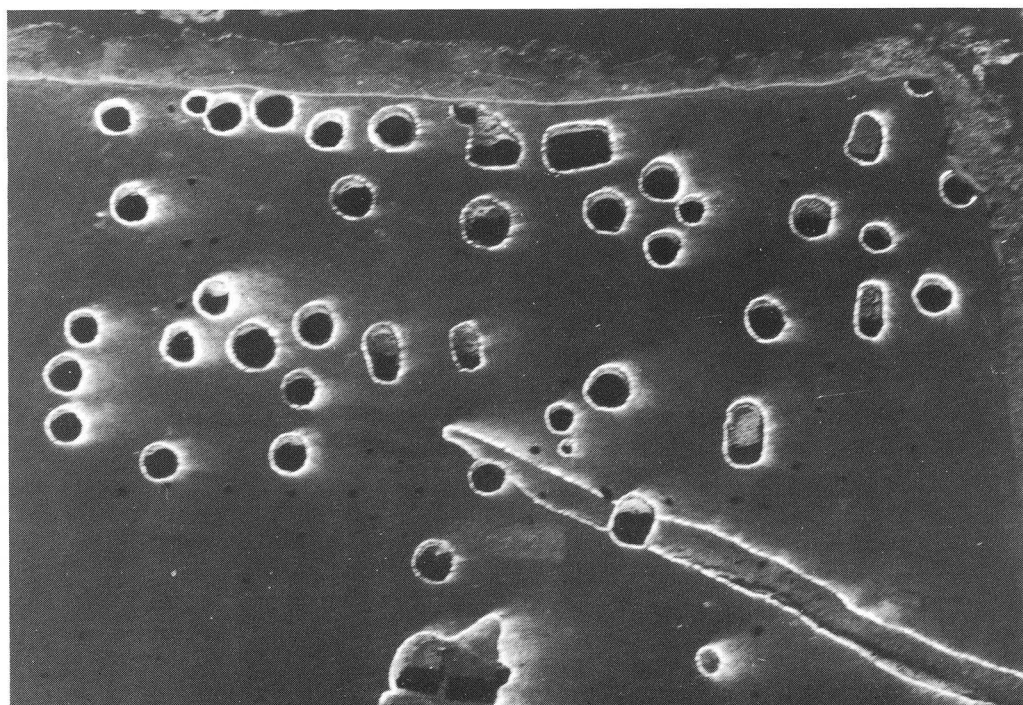




SE 7 土層断面



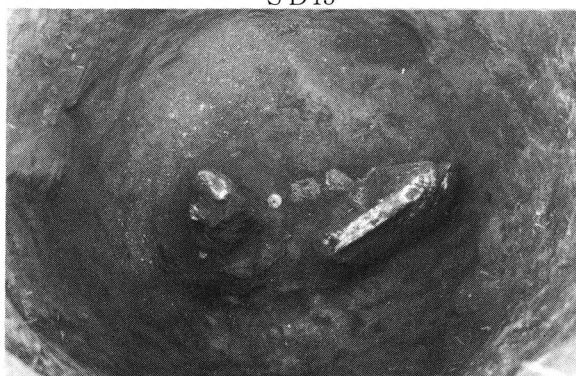
SE 7



近世墓全景



S D15



S D21



SD23



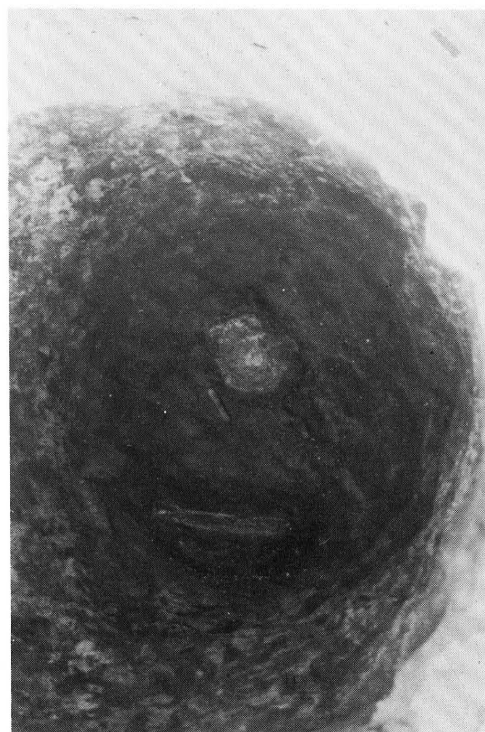
SD28



SD22



SD27



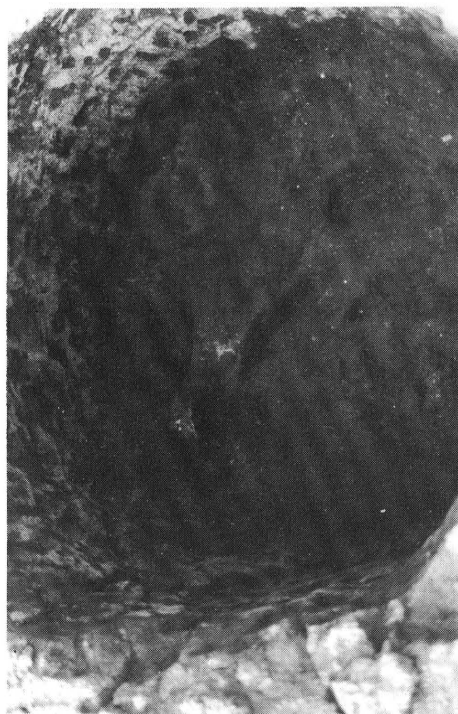
SD30



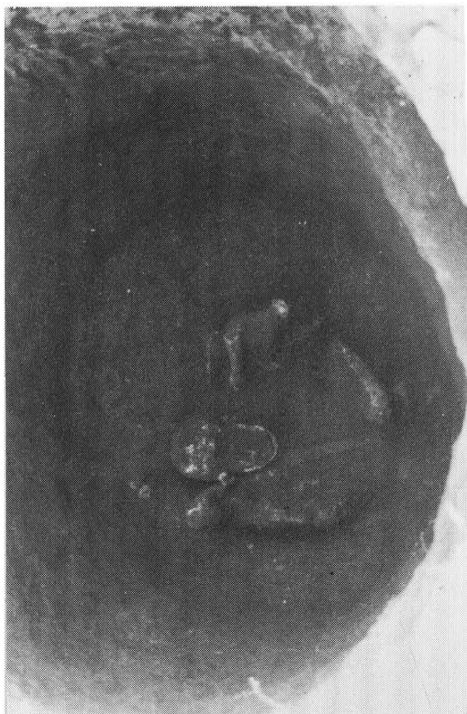
SD33



SD29



SD31



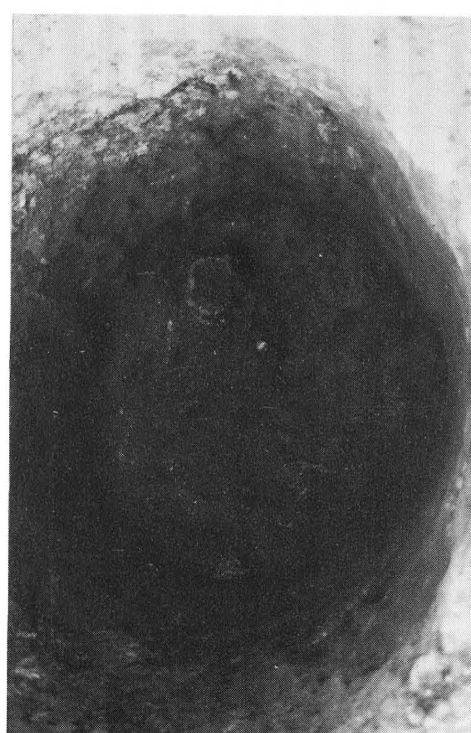
S D 36



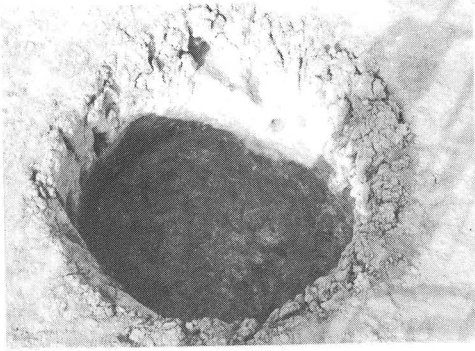
S D 39



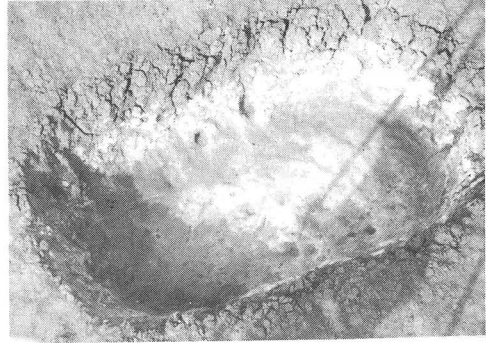
S D 35



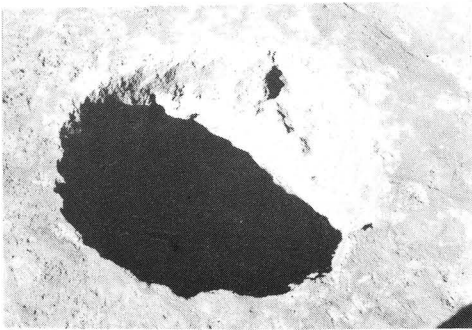
S D 38



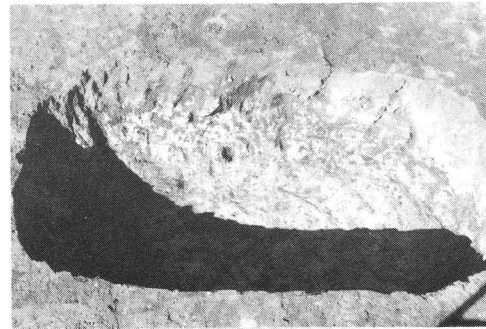
SD 1



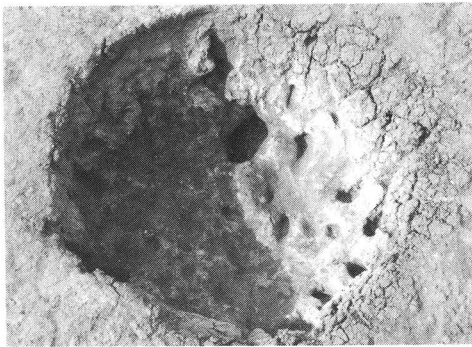
SD 2



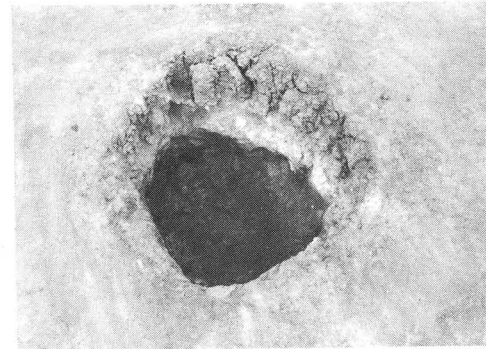
SD 7



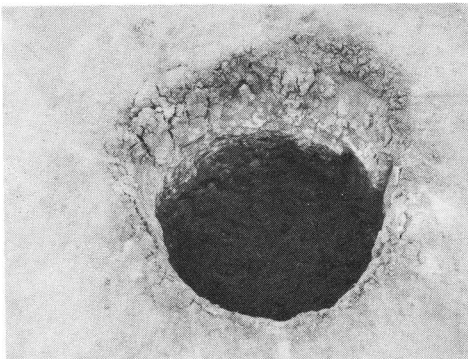
SD 8



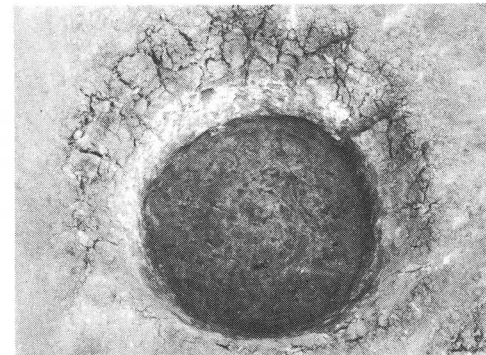
SD 9



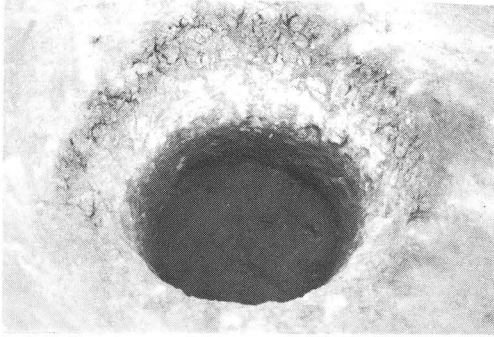
SD 10



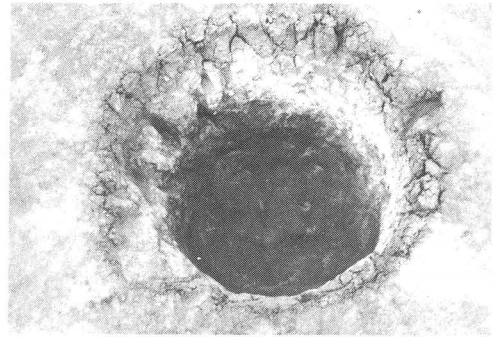
SD 11



SD 12



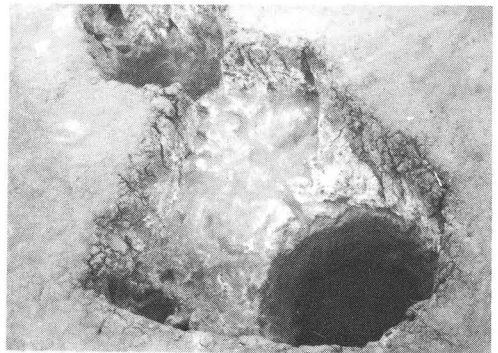
S D13



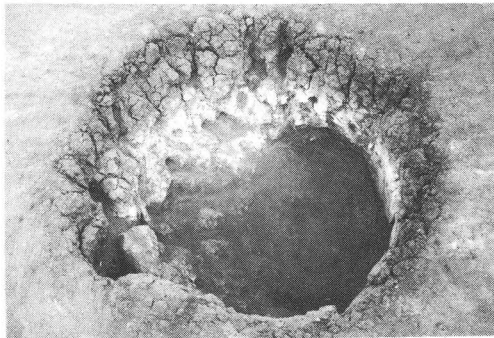
S D14



S D15



S D16 · 17 · 43



S D18



S D19



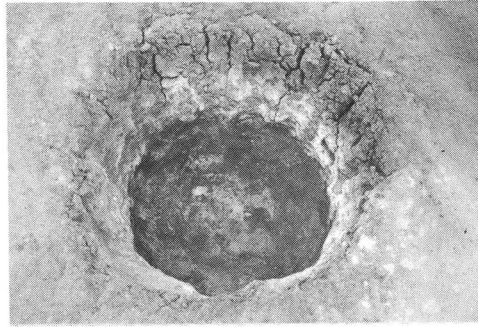
S D20



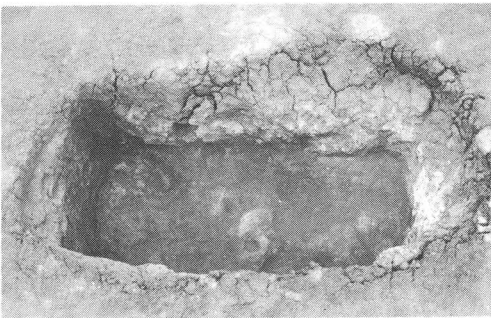
S D21



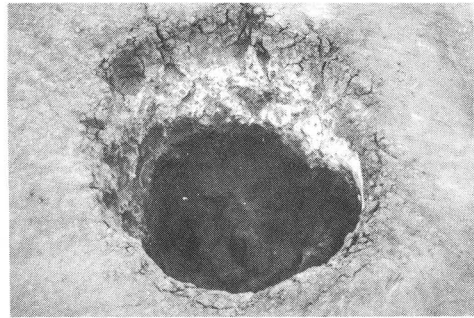
S D22



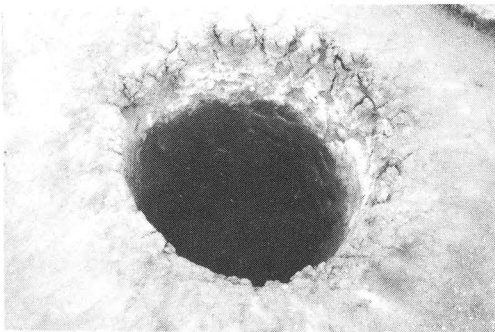
S D23



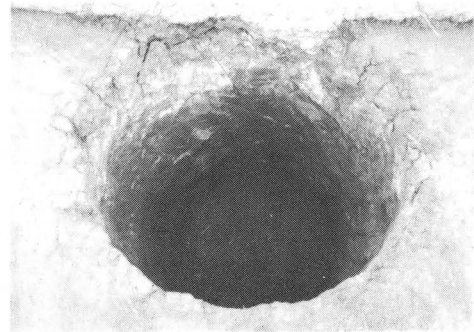
S D24



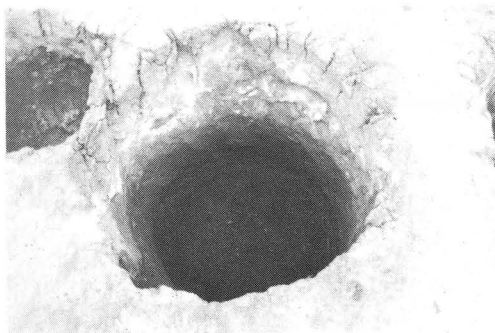
S D25



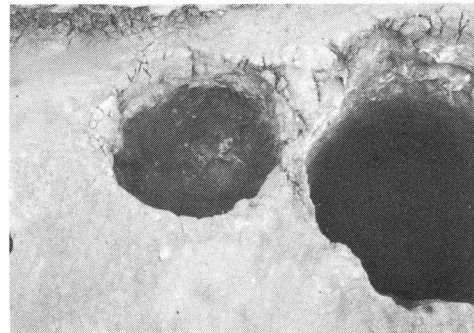
S D26



S D27



S D28



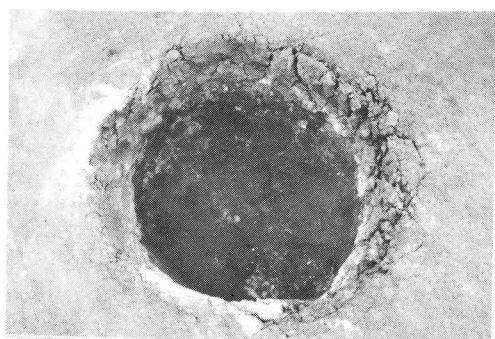
S D29



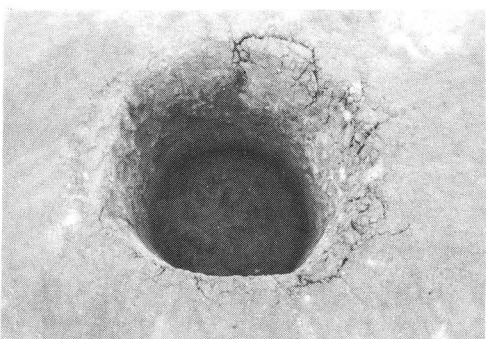
S D30



S D31



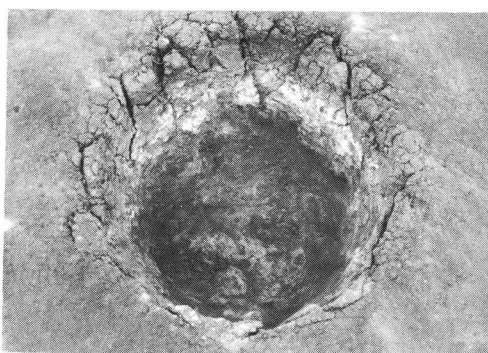
S D32



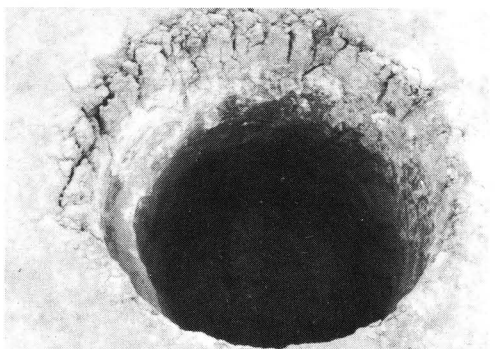
S D33



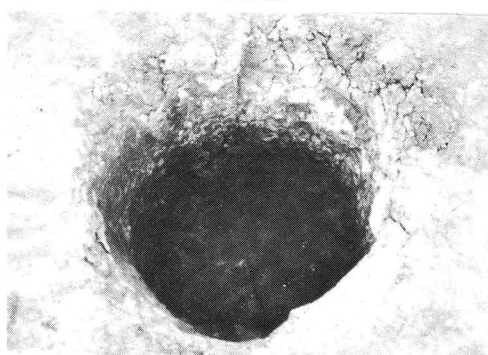
S D34



S D35



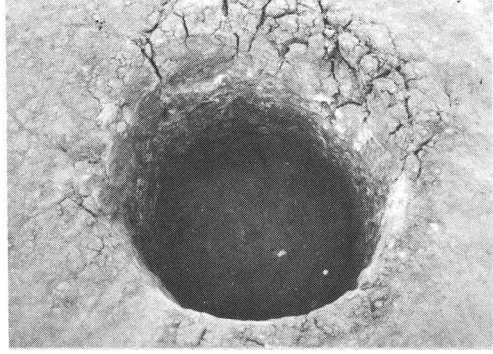
S D36



S D37



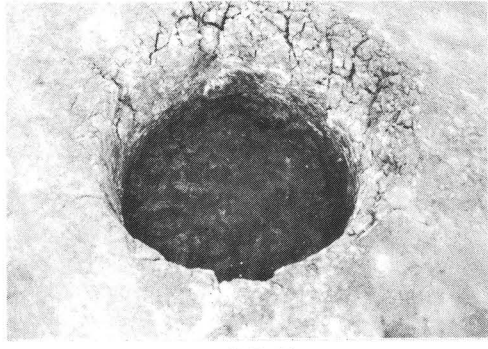
S D 38



S D 39



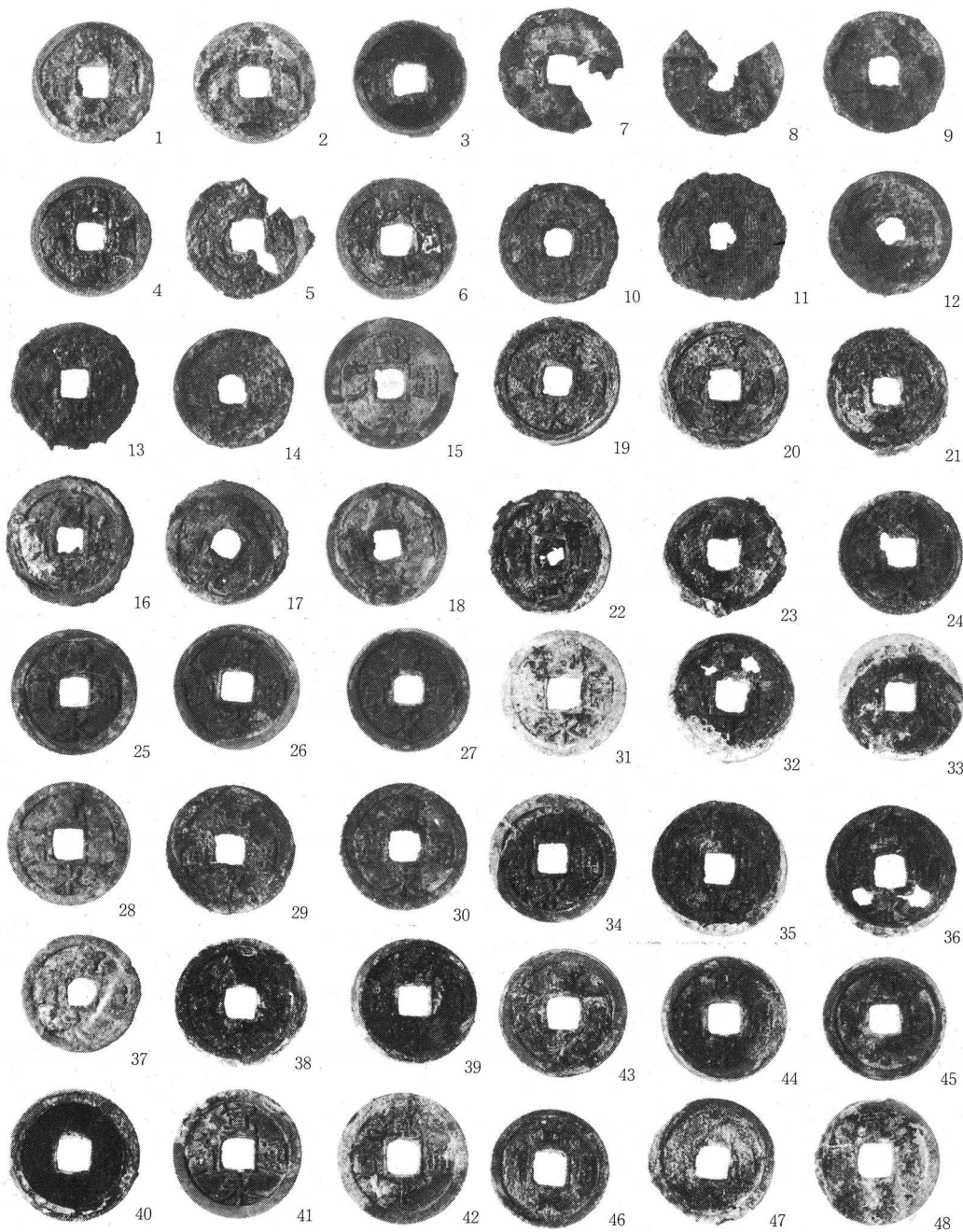
S D 40



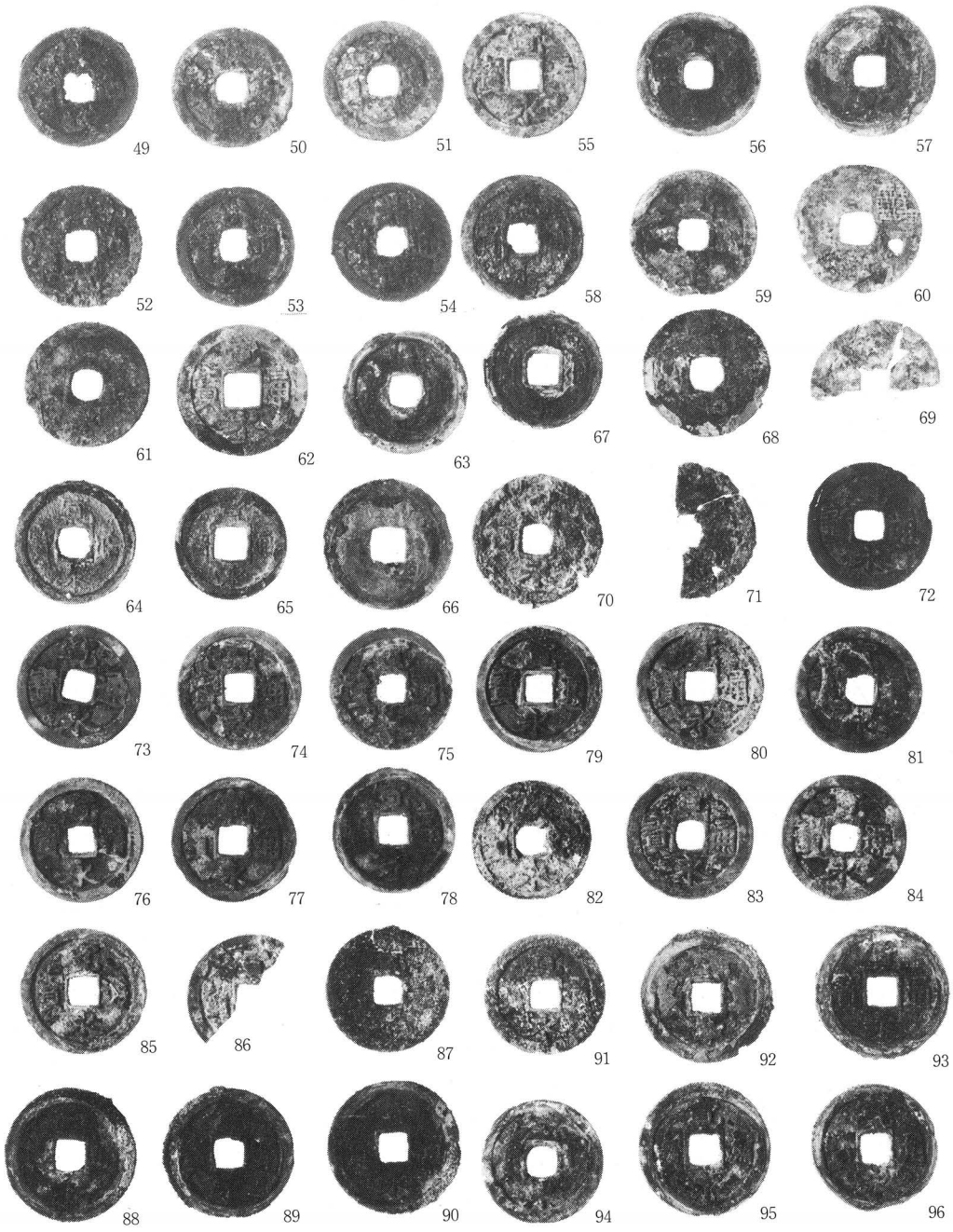
S D 41



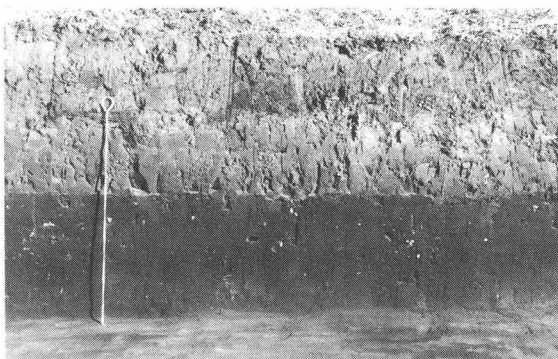
S D 42



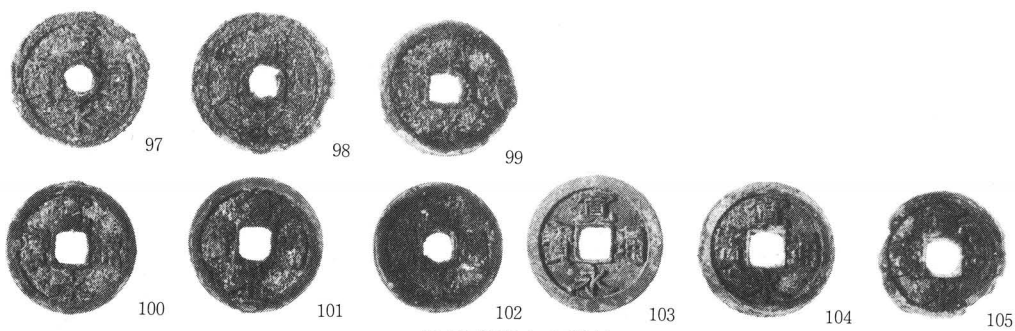
近世墓出土六道钱



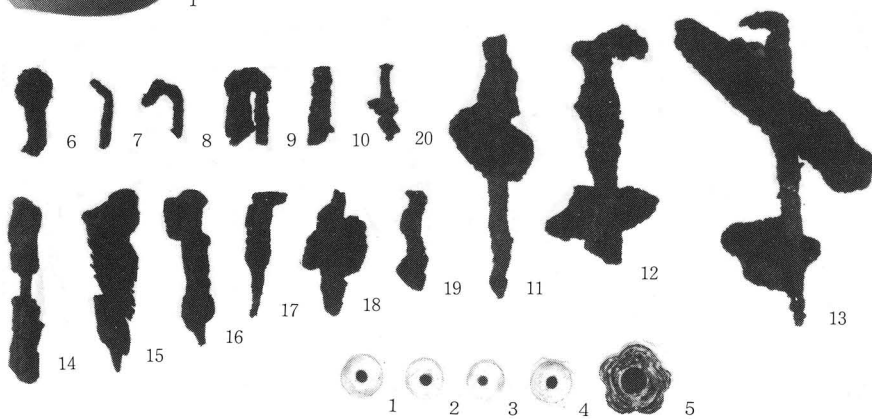
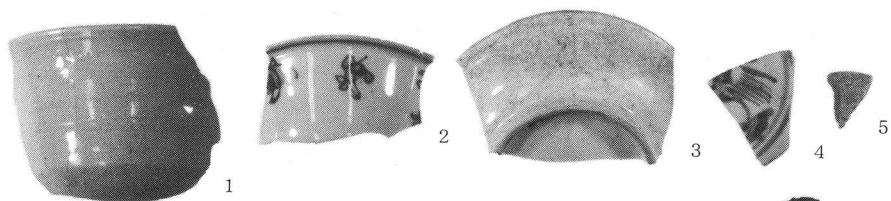
近世墓出土六道钱



基本土层



近世墓出土六道钱



近世墓出土遺物

宮崎県小林市水落遺跡出土の近世人骨

佐伯和信・松下孝幸・分部哲秋・折原義行・小山田常一

宮崎県小林市水落遺跡出土の近世人骨

佐伯和信^{*}・松下孝幸^{*}・分部哲秋^{*}・折原義行^{*}・小山田常一^{**}

キーワード：宮崎県、近世人骨、保存不良

はじめに

水落遺跡は県営圃場整備事業に伴って発掘調査された遺跡で、宮崎県小林市大字細野字新田に所在する。調査は1989年に行なわれ、17体の近世人骨が発掘された。

宮崎県での近世人骨の出土例は宮崎学園都市の堂地東遺跡（松下・他、1983）の例だけであり、しかも堂地東近世人の保存状態は悪く、本県での近世人の特徴は不明のままである。本例の保存状態も良くはないが、出土例数が多いだけに多少の特徴を知ることができた。

残存人骨の人類学的観察や計測を行なったので、その結果を報告しておきたい。

資 料

本遺跡から出土した人骨は表1に示すように、成人13体、小児1体、成人か小児か判別できなかった人骨が3体で、合計17体の人骨である。埋葬姿勢はほとんどが坐葬で、人骨の所属時代は考古学的所見より近世である。保存状態は悪く、観察困難な人骨がほとんどを占め、性別・年齢を推定できた例は限られた。表2に出土人骨、その性別・年齢の一覧を示した。なお、SD-21号墓には、成人骨と小児の歯が混在していたので、それぞれSD-21-1、SD-21-2とした。

表1 資料数 (Table1. Number of materials)

成		人		小 児	不 明	合 計
男性	女性	不明				
3	1	9		1	3	17

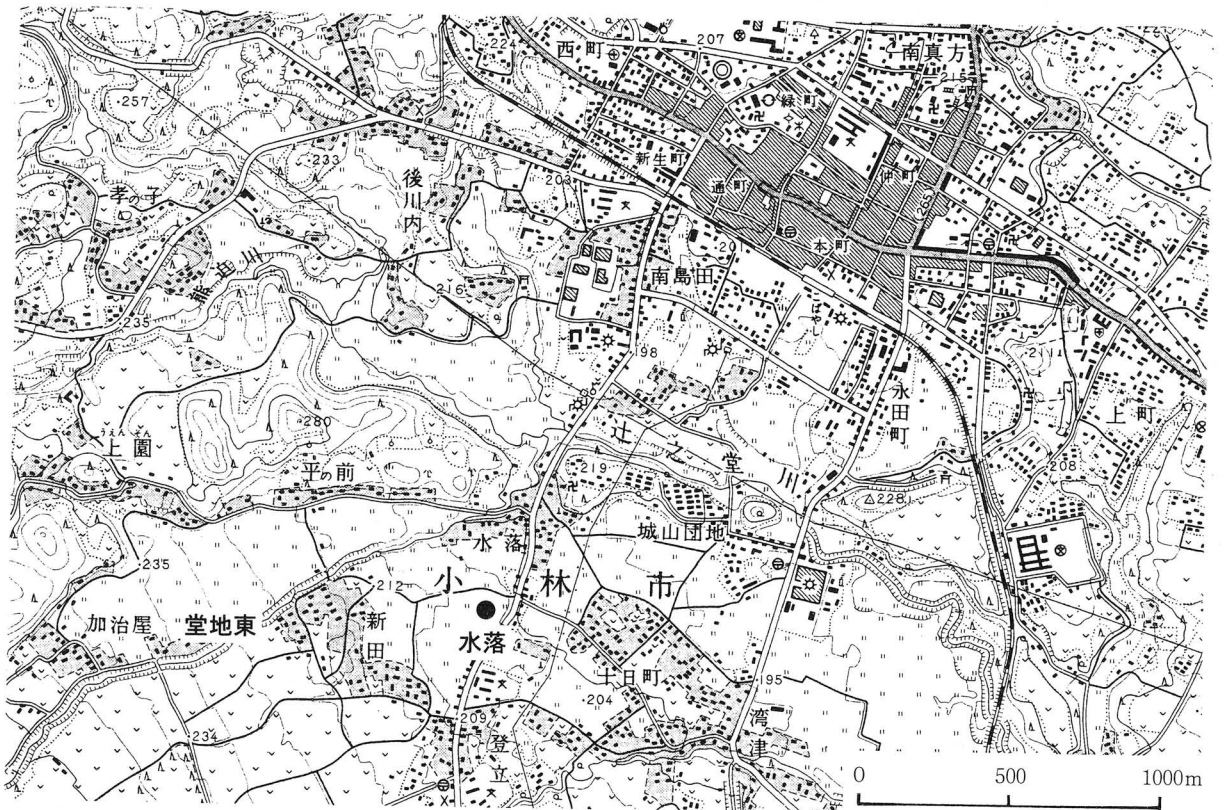
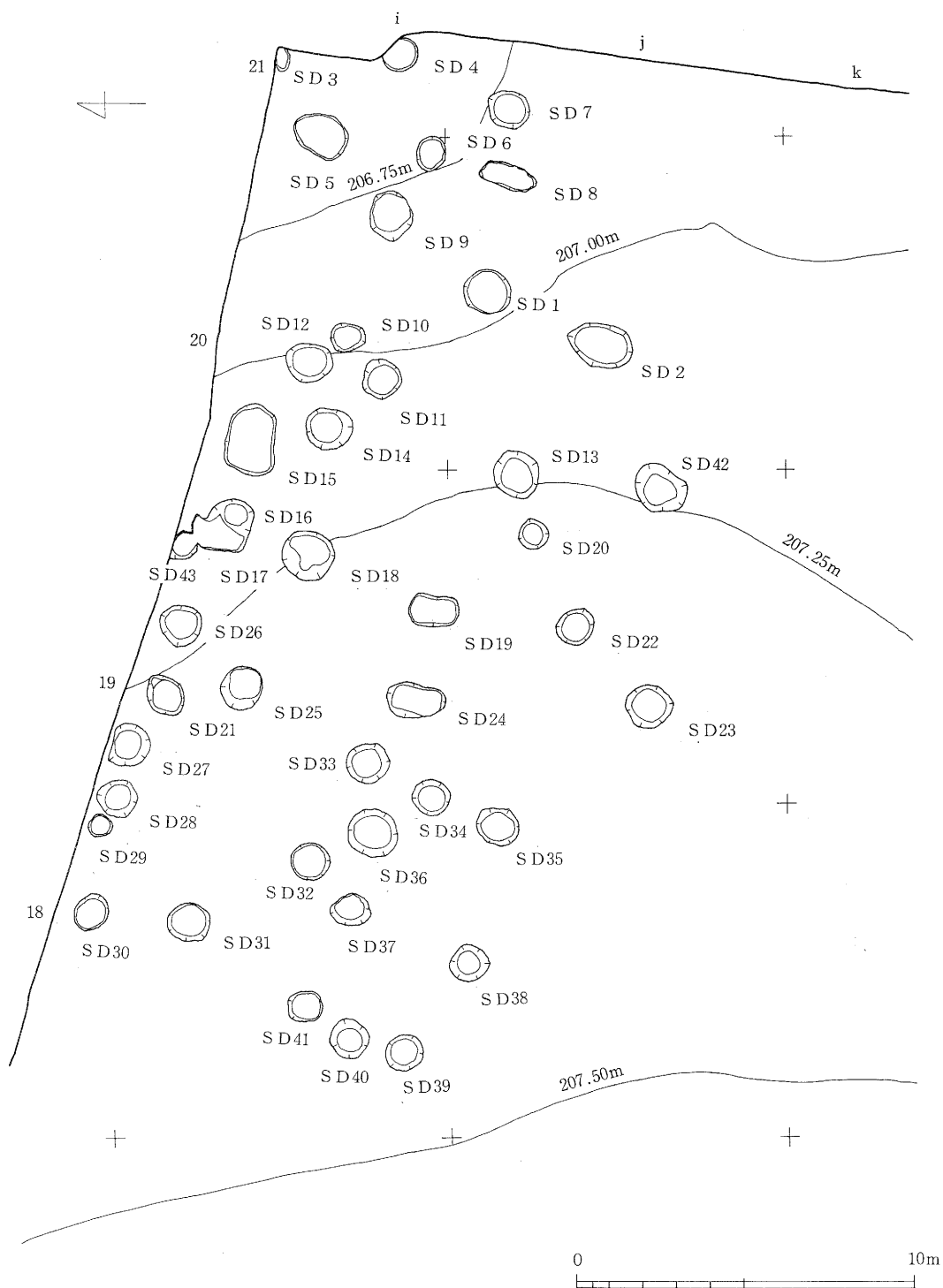


図1. 遺跡の位置 (Fig.1. Location of the Mizuotoshi site, Kobayashi City, Miyazaki Prefecture)



近世墓分布图

表2 出土人骨一覧 (Table 2. List of skeletons)

人骨番号	性別	年令
SD-15	男性	老年
SD-21-1	不明	不明
21-2	—	小児
SD-22	不明	不明
SD-23	不明	不明
SD-27	男性	熟年
SD-28	不明	不明
SD-30	不明	不明
SD-31	不明	不明
SD-32	不明	不明
SD-33	女性	壮年
SD-34	不明	不明
SD-35	不明	老年
SD-36	男性	熟年
SD-38	不明	不明
SD-39	不明	不明
SD-40	不明	不明

計測方法は、Martin-Saller (1957) に従い、歯については藤田 (1949) の方法で小山田が計測し、咬耗度および齶歯の観察も小山田が行った。また、小児骨の年令推定については分部が行なった。なお、各人骨の計測値は文末に一括して掲げた。

所 見

SD-15号人骨 (男性・老年)

頭蓋、橈骨および尺骨が残存している。

1. 頭蓋

頭蓋冠のうち、前頭骨、右頭頂骨および右側頭骨が比較的良好に残存している。前頭結節は発達していない。眉間および眉上弓は欠損して観察できない。乳様突起は先端を欠損してはいるものの、幅広く、よく発達しているようである。外耳道は両側とも観察できたが、骨腫は認められない。縫合は三主縫合のうち冠状縫合を観察することができたが、内外両板とも閉鎖している。遊

離歯が残存している。その残存歯を歯式で示すと次のとおりである。

$M_3 M_2 / / / C I_2 I_1$	$/ / / / / / / / /$	$P_1 / M_1 M_2 M_3$	$\left. \begin{array}{l} / : \text{不明 (破損)} \\ \circ : \text{歯槽開存} \\ \bullet : \text{歯槽閉鎖} \end{array} \right\}$
$/ / / / / / / / /$	$/ / / / / / / / /$		

咬耗度は Broca の II 度である。

2. 四肢骨

左側の尺骨、橈骨のそれぞれ骨体近位部が残存している。尺骨の骨体は太く頑丈である。計測は中央部のみ可能で、中央周が51mmと、骨体は太い。また、中央最大径は17mm（左）、中央最小径は14mm（左）で、中央断面示数は82.35（左）となり、骨体中央部の扁平性は認められない。橈骨も尺骨同様、太く頑丈である。周径は計測できなかったが、骨体横径が18mm（左）、骨体矢状径が12mm（左）で、骨体断面示数は66.67（左）となり扁平性は弱いようである。

3. 性別・年令

性別は、側頭骨の乳様突起が発達していること、尺骨および橈骨が太く頑丈であることから、男性と推定した。年令は、冠状縫合が内外両板とも閉鎖していることから老年とした。

SD-21-1号人骨（性別・年令不明）

頭蓋、大腿骨が残存している。

1. 頭蓋

骨細片のみが残存しているにすぎない。

2. 四肢骨

左右の大腿骨体が残存している。右大腿骨は部位不明の骨体の一部のみで、計測はできない。左大腿骨は骨体上部が残存しており、計測はできないが、太くはなく、また極端に細くもないようである。

3. 性別・年令

性別は、判断材料が大腿骨しかなく、しかもこの大腿骨がどちらかを積極的に示唆できる太さではないので不明とした。また、年令も不明である。

SD-21-2号人骨（小児）

遊離歯のみ残存していた。残存歯は乳歯と未完成の永久歯とが混在しており、重複している歯もないことから、1体の小児のものとした。また、未完成の永久歯のうち、咬耗は第一大臼歯にわずかに認められる（Broca I）のみで、他の歯には認められないことから、年令は6歳から7歳と推定される。残存歯の歯式は次のとおりである。

///	///	///	///	///	///	///	c	///	m
///	///	P ₂	P ₁	///	///	I ₁	///	///	P ₂ M ₁ ///
///	///	M ₁	///	C	I ₂	I ₁	I ₁	I ₂	P ₁ P ₂ M ₁ M ₂ ///
///	///	m	///	///	///	///	///	///	m

なお、乳歯の咬耗度はBrocaのⅡ度である。

SD-22号人骨（性別・年齢不明）

骨細片と遊離歯が残存していた。骨細片は頭蓋か四肢骨かを判別できないほど、状態が悪い。残存歯の歯式は次のとおりである。

///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	P ₁	P ₂	///	///	///
///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///

咬耗度は左上顎第一小臼歯のみの観察であるが、BrocaのⅡ度である。

SD-23号人骨（性別・年齢不明）

頭蓋と四肢骨片が残存している。

1. 頭蓋

骨細片が残存しているが、歯が混在していることから、骨種は上顎骨および下顎骨と思われる。残存歯の歯式は次のとおりである。

///	///	///	P ₂	P ₁	C	I ₂	I ₁	I ₁	I ₂	C	P ₁	P ₂	M ₁	M ₂	///
M ₃	M ₂	M ₁	P ₂	P ₁	C	I ₂	I ₁	///	I ₂	C	P ₁	P ₂	M ₁	M ₂	M ₃

咬耗度はBrocaのⅡ度である。

2. 四肢骨

長さ約5.5cmの四肢骨の骨体が残存しているが、骨種は判別できない。

3. 性別・年齢

性別および年齢は、推定できる部位が残存しておらず、不明である。

SD-27号人骨（男性・熟年）

本遺跡の中では比較的保存がよく、頭蓋、肩甲骨、上腕骨、大腿骨が残存している。

1. 頭蓋

前頭骨の後半、両側の頭頂骨の前2/3がまとまって残存しているほか、前頭骨の眉間から鼻根部にかけて、側頭骨の岩様部、後頭骨の一部および下顎骨の骨体が残存している。頭蓋冠の計

測はできなかったが、幅径は大きいようである。頭頂結節は比較的発達している。眉間の隆起は顕著で、眉上弓もよく発達している。鼻根部は幅が広く、やや陥凹している。両側の外耳道が観察できたが、ともに骨腫は認められない。縫合は冠状縫合、矢状縫合が観察できたが、両者とも内板は癒合し、外板は開離している。

残存歯の歯式および下顎の歯槽の状態を示すと次のとおりである。

$\begin{array}{cccccccc} / & / & / & / & / & / & / & / \\ \hline / & \bigcirc & \bullet & P_2 & P_1 & C & I_2 & \bigcirc \end{array}$	$\begin{array}{cccccccc} / & / & / & / & P_1 & / & / & / \\ \hline / & / & / & / & P_2 & / & / & / \end{array}$
$\begin{array}{cccccccc} / & / & / & / & / & / & / & / \\ \hline / & \bigcirc & \bullet & P_2 & P_1 & C & I_2 & \bigcirc \end{array}$	$\begin{array}{cccccccc} / & / & / & / & P_1 & / & / & / \\ \hline / & \bigcirc & \bigcirc & C & \bullet & \bullet & \bullet & M_2 / \end{array}$

咬耗度はBrocaのⅡ度である。

2. 四肢骨

左側の肩甲骨、左側の上腕骨、左側の大腿骨が残存している。上腕骨は骨体遠位部が残存しており、最小周が計測できた。計測値は60mm（左）で、細くはないようである。大腿骨は骨体の半分程度が残存しており、中央部の計測ができた。粗線は発達しており、骨体は前後にやや圧平されたような形態をしている。骨体中央周は84mmで、骨体は小さいとはいえないが、けっして大きくもない。また、骨体中央矢状径が26mm（左）、骨体中央横径が28mm（左）で、骨体中央断面示数は92.86（左）となり、骨体の後方への発達は全くみられない。

3. 性別・年令

性別は眉間の隆起が強いことや眉上弓が発達していることから男性と推定した。年令は冠状縫合と矢状縫合の内板が癒合していることから、熟年とした。

SD-28号人骨（性別・年令不明）

頭蓋および四肢骨片が残存している。

1. 頭蓋

遊離歯のみ残存している。残存歯を歯式で示すと次のとおりである。

$\begin{array}{cccccccc} / & / & / & / & / & C & I_2 & / \\ \hline / & / & / & / & P_1 & C & / & / \end{array}$	$\begin{array}{cccccccc} / & / & / & / & P_2 & / & / & / \\ \hline / & / & / & / & C & / & P_2 & / & / & / \end{array}$
---	---

咬耗度はBrocaのⅡ度である。

2. 四肢骨

幅18mm、長さ70mm程度の骨体片が残存しているが、骨種は不明である。

3. 性別・年令

性別、年令とも推定できる部位が残存しておらず、不明である。

SD-30号人骨（性別・年令不明）

四肢骨の骨体と思われる骨細片のみが残存しているにすぎない。

SD-31号人骨（性別・年齢不明）

頭蓋の細片と歯および四肢骨の細片が残存している。いずれの骨細片も部位を特定することはできない。また、残存歯も歯冠が欠損したり、小さな碎片になっており、歯種を同定することはできない。

性別・年齢はともに不明である。

SD-32号人骨（性別・年齢不明）

幅20mm、長さ30～50mm程度の骨片が数個残存している。骨体の丸み、骨壁の厚さから、下肢骨（大腿骨、脛骨）の一部ではないかと考えられる。性別、年齢は不明である。

SD-33号人骨（女性・壮年）

頭蓋および四肢骨片が残存している。

1. 頭蓋

ラムダを含むラムダ縫合の左側部を中心とする部分、左の側頭骨後部および下顎骨の一部が残存している。左側頭骨の乳様突起の発達が悪く、後頭骨の上項線は不明瞭である。縫合はラムダ縫合と矢状縫合の一部が観察できたが、両縫合とも内板、外板いずれも開離している。下顎骨は右第一大臼歯より後部の骨体を歯が釘植した状態で残存している。釘植歯以外に遊離歯も残存している。残存歯の歯式は次のとおりである。

/ M ₂ M ₁ P ₂ P ₁ C I ₂ I ₁	I ₁ I ₂ C P ₁ P ₂ M ₁ M ₂ /
/ M ₂ M ₁ P ₂ P ₁ C I ₂ I ₁	I ₁ ○ C P ₁ P ₂ M ₁ M ₂ /

なお、咬耗度はBrocaのⅡ度である。

2. 四肢骨

部位不明の骨片が残存しているにすぎない。

3. 性別・年齢

性別の推定は判断する部位が少なく定かではないが、敢えて推定すると、乳様突起の発達が弱いこと、後頭骨上項線が不明瞭であることから女性と考えられる。年齢はラムダ縫合、矢状縫合とも内外両板が開離していることから、壮年と推定した。

SD-34号人骨（性別・年齢不明）

部位不明の骨細片がごく少量残存しているにすぎない。性別、年齢は不明である。

SD-35号人骨（性別不明・老年）

1. 頭蓋

左側の前頭骨、頭頂骨および遊離歯が残存している。これらは土圧によって矢状方向に圧平されている。縫合は、冠状縫合、矢状縫合の外板のみ観察できたが、両者とも完全に閉鎖している。遊離歯の歯式は次のとおりである。

/ / / / / / / / / / / / / / / / / / / /	/ / / / / / / / / / / / C P ₁ P ₂ / M ₂ /
--	---

咬耗度はBrocaのⅡ度である。

2. 四肢骨

骨片が残存していたにすぎない。

3. 性別・年齢

性別は不明であるが、年齢は冠状縫合、矢状縫合の外板が両者とも閉鎖していることから、老年とした。

SD-36号人骨（男性・熟年）

本遺跡の出土人骨中、最も保存状態のよい人骨である。頭蓋、上腕骨、橈骨、脛骨が残存している。

1. 頭蓋

右頭頂骨の後部を除く、頭蓋冠の大部分が残存している。前頭結節の発達は弱い。また、眉上弓の隆起は強い。乳様突起は先端を欠損しているが、基部から推測すると、やや発達していた様子がうかがえる。縫合は冠状縫合、矢状縫合が観察できたが、両縫合とも内板は癒合し、外板は開離している。外耳道は左側の上壁のみしか観察できず、骨腫の有無は不明である。下顎骨は骨体の歯槽部が残存している。下記の歯式でもわかるように、歯槽の閉鎖はみられない。残存歯の歯式は次のとおりである。

/ M ₂ M ₁ P ₂ P ₁ C I ₂ I ₁ /	I ₁ I ₂ C P ₁ P ₂ M ₁ M ₂ /
M ₃ M ₂ M ₁ P ₂ P ₁ C I ₂ I ₁ /	I ₁ I ₂ C P ₁ P ₂ M ₁ M ₂ M ₃ /

咬耗度はBrocaのⅡ～Ⅲ度である。

2. 四肢骨

①上腕骨

左側遠位端が残存している。骨体の中央部での太さは不明だが、遠位部、すなわち上顆およびそれに続く骨体は幅広く、径は大きく頑丈だった様子がうかがえる。

② 橈骨

左側の近位端のみ残存している。計測はできないが、小頭および頸部の周径は大きかったようである。

③ 大腿骨

右側は骨体の大部分、左側は小転子の高さより近位の部分が残存している。骨体はいたるところでひび割れ、外反しているので計測はできない。しかし、骨体は太く、骨壁も厚くかなり頑丈である。

④ 脛骨

右側の遠位端が残存している。大腿骨同様、ひび割れと外反が著しく最小周の計測はできない。しかし、大腿骨同様、骨体は太く頑丈である。

3. 性別・年齢

性別は、前頭骨が後方へ傾斜し、眉上弓も発達していること、四肢骨の骨体が太く頑丈であることなどから男性と推定した。年齢は、冠状縫合および矢状縫合がともに内板が癒合し、外板が開離していることから熟年とした。

SD-38号人骨（性別・年齢不明）

頭蓋および四肢骨の骨細片のみ残存しているにすぎない。性別、年齢とも推定できない。

SD-39号人骨（性別・年齢不明）

頭蓋と大腿骨が残存している。

1. 頭蓋

頭蓋は骨細片と遊離歯のみ残存している。残存歯の歯式は次のとおりである。

/ / / / / C / /		/ I ₂ / / / / / / /
/ / / / / / / /		/ / / / / / / /

なお、咬耗度はBrocaのⅡ度である。

2. 四肢骨

大腿骨体と思われる骨片が残存しているが、左右の別および部位は不明である。

3. 性別・年齢

性別、年齢とも判別する材料に欠き、不明である。

SD-40号人骨（性別・年齢不明）

頭蓋の骨細片のみ残存しているにすぎない。

要 約

宮崎県小林市の水落遺跡から17体の近世人骨が出土した。この地域の近世人骨は資料がほとんどなく、本遺跡の人骨は期待されたが、概して保存状態は不良であった。以下に本遺跡出土人骨の所見を要約する。

1. 水落遺跡から出土した人骨は合計17体の近世人骨で、埋葬姿勢はほとんどが坐葬である。
2. 17体の人骨のうち、成人骨は13体、小児骨は1体で、その他成人か小児か判別できない人骨が3体あった。
3. 成人骨のうち男性骨3体、女性骨1体を判別できたが、残りの9体は性別を明かにすることができなかった。
4. 人骨の所属時代は考古学的所見から近世と推定されている。
5. 人骨の保存状態は悪く、頭型や顔面の形態的特徴を明らかにすることはできなかった。しかし、四肢骨の一部は観察や計測が可能で、男性の四肢骨にはその径がかなり大きく、頑丈なものがみられ、本被葬者のなかにはかなり大柄な人がいた可能性が強い。
6. 外耳道骨腫や風習的抜歯はみられなかった。

謝 辞

擧筆するにあたり、本研究と発表の機会を与えていただいた宮崎県県教育庁文化課および小林市教育委員会社会教育課の先生方に感謝致します。

* Kazunobu SAIKI, Takayuki MATSUSHITA, Tetsuaki WAKEBE, Yoshiyuki ORIHARA
Department of Anatomy, Nagasaki University School of Medicine

[長崎大学医学部解剖学第二教室]

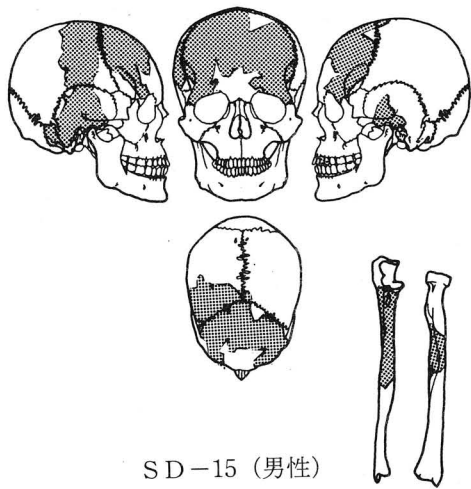
** Jouichi OYAMADA

Department of Oral Anatomy, Nagasaki University School of Dentistry

[長崎大学歯学部口腔解剖学第二講座]

【参考文献】

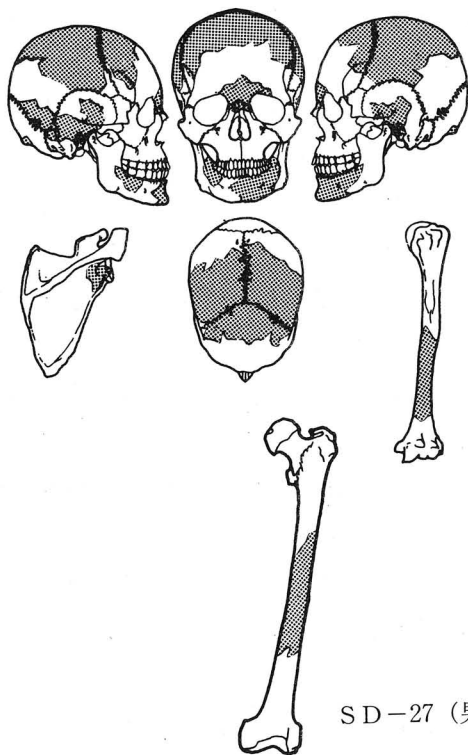
1. 藤田恒太郎、1965：歯の話。岩波書店。東京：57-98.
2. Martin-Saller, 1957：Lehrbuch der Anthropologie. Bd.1. Gustav Fischer Verlag, Stuttgart: 429-597.
3. 松下孝幸、分部哲秋、田代和則、1980：熊本県川田京坪遺跡出土の近世人骨。車塚古墳・川田京坪遺跡・川田小筑遺跡・塩塚古墳（熊本県文化財調査報告46）付：1-17.
4. 松下孝幸、分部哲秋、1980：熊本県興善寺四郎丸遺跡出土の近世人骨。興善寺II（熊本県文化財調査報告45）：59-58.
5. 松下孝幸、1981：鹿児島県松之尾遺跡出土の人骨。松之尾遺跡（枕崎市松之尾土地地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査報告書(1)）：215-228.
6. 松下孝幸、分部哲秋、石田肇、佐熊正史、1983：宮崎学園都市堂地東遺跡出土の近世人骨。宮崎学園都市埋蔵文化財調査概報(Ⅲ)：47-55.
7. 松下孝幸、石田肇、佐熊正史、用丸英博、1983：成岡・西ノ平遺跡出土の中世・近世人骨。成岡・西ノ平・上ノ原遺跡（鹿児島県埋蔵文化財調査報告書28）：355-382.
8. 松下孝幸、分部哲秋、中谷昭二、1985：長崎県松浦市楼階田遺跡出土の近世人骨。楼階田遺跡-松浦火力発電所建設に伴う埋蔵文化財調査報告書-(長崎県文化財調査報告書第76集)：191-196.
9. 中橋孝博、1987：福岡市天福寺出土の江戸時代人頭骨。人類誌、95：89-106.
10. 佐伯和信、松下孝幸、小山田常一、分部哲秋、折原義行、1991：長崎県松浦市田原遺跡出土の近世人骨。田原遺跡（松浦市文化財調査報告書第10集）：37-49. 70-71.



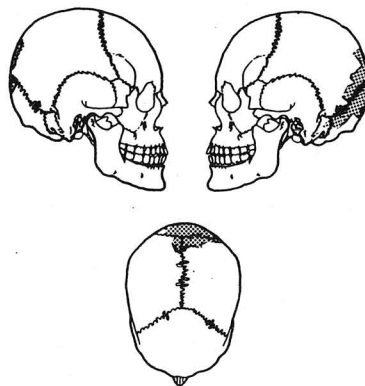
SD-15 (男性)



SD-21-1 (性別不明)



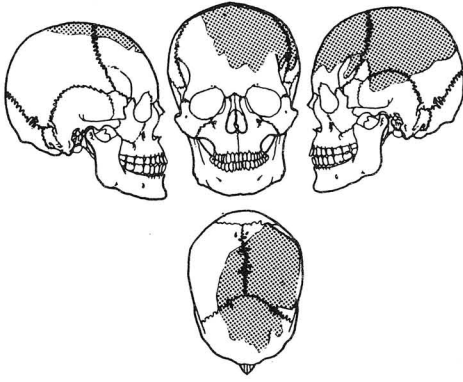
SD-27 (男性)



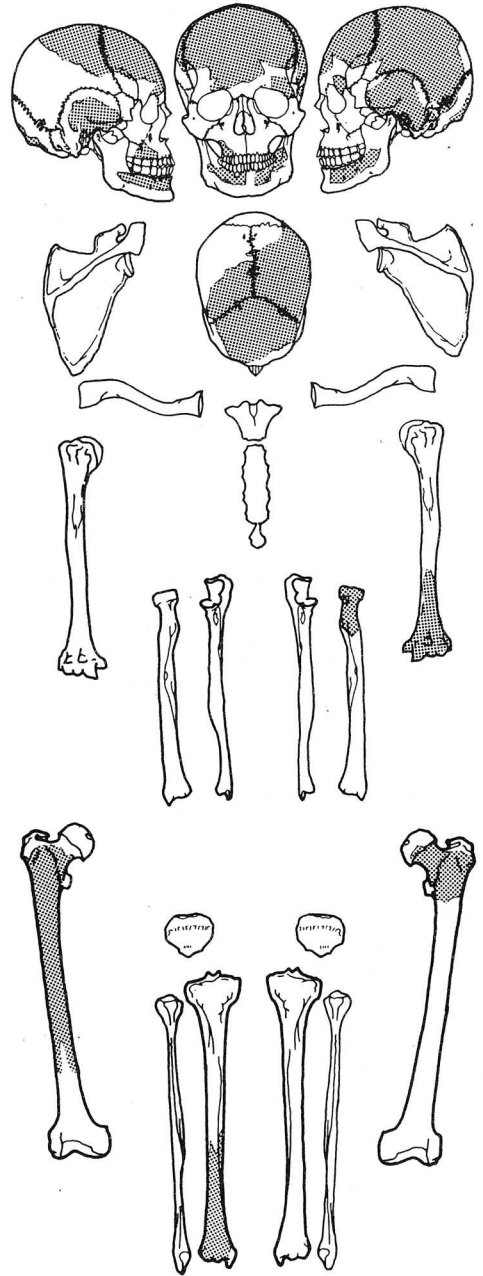
SD-33 (女性)

図2. 人骨の残存部、アミかけ部

(Fig.2. Regions of preservation of the skeleton. Shaded areas are preserved.)



SD-35 (性別不明)



SD-36 (男性)

表3 上腕骨計測値 (mm) (Humerus)

	水 落		水 落	
	S D - 2 7		S D - 3 6	
	男 性		男 性	
	左		左	
7. 骨体最小周	60	—	1	60
11. 滑 車 幅	—	23	1	23
12. 小 頭 幅	—	17	1	17
13. 滑 車 深	—	27	1	27
14. 尺骨頭窩幅	—	29	1	29
15. 尺骨頭窩深	—	15	1	15

表4 橈骨計測値 (mm) (Radius)

	水 落	
	S D - 1 5	
	男 性	
	左	
4. 骨体横径	18	
5. 骨体矢状径	12	
5/4 骨体断面示数	66.67	

表6 大腿骨計測値 (mm) (Femur)

	水 落	
	S D - 2 7	
	男 性	
	左	
6. 骨体中央矢状径(左)	26	
7. 骨体中央横径(左)	28	
8. 骨体中央周(左)	84	
6/7 骨体中央断面示数(左)	92.86	

表5 尺骨計測値 (mm) (Ulna)

	水 落	
	S D - 1 5	
	男 性	
	左	
11. 尺骨矢状径	15	
12. 尺骨横径	17	
S 中央最小径	14	
L 中央最大径	17	
C 中 央 周	51	
11/12 骨体断面示数	88.24	
S/L 中央断面示数	82.35	

表7 脛骨計測値 (mm) (Tibia)

	水 落	
	S D - 3 6	
	男 性	
	左	
7. 下端矢状径 (右)	41	
(左)	—	

表8 歯の計測値(mm) (Tooth)

	水落 SD-15 男性		水落 SD-27 男性		水落 SD-36 男性		水落 SD-33 女性		水落 SD-22 不明	
	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左
上顎										
I ₁	△	—	—	—	7.41	7.11	7.06	7.39	—	—
I ₂	△	—	—	—	7.17	6.93	7.07	6.78	—	—
C	△	—	—	—	8.52	8.36	8.30	8.25	—	—
P ₁	—	—	—	9.38	10.39	10.16	9.68	9.53	—	10.13
P ₂	—	—	—	—	9.91	9.81	9.20	9.32	—	—
M ₁	—	—	—	—	12.07	11.93	11.71	11.53	—	—
M ₂	13.47	—	—	—	11.37	—	12.04	11.31	—	—
M ₃	12.83	—	—	—	—	—	—	—	—	—
下顎										
I ₁	—	—	—	—	6.01	△	5.95	5.97	—	—
I ₂	—	—	△	—	6.34	6.18	6.43	—	—	—
C	—	—	8.27	△	7.79	7.78	7.99	7.77	—	—
P ₁	—	9.15	7.78	—	8.29	7.95	7.53	7.54	—	—
P ₂	—	—	8.29	—	8.69	8.67	8.29	8.37	—	—
M ₁	—	12.30	—	—	11.19	11.32	10.74	10.70	—	—
M ₂	—	11.52	—	10.27	11.12	11.15	10.45	10.38	—	—
M ₃	—	12.02	—	—	10.79	11.08	—	—	—	—
上顎										
I ₁	△	—	—	—	8.89	8.74	8.58	8.76	—	—
I ₂	△	—	—	—	7.78	7.61	7.09	7.28	—	—
C	△	—	—	—	8.50	8.68	8.56	8.43	—	—
P ₁	—	—	—	7.12	7.89	7.92	7.42	7.71	—	7.41
P ₂	—	—	—	—	7.38	7.44	7.05	7.35	—	△
M ₁	—	—	—	—	10.65	10.69	10.16	10.28	—	—
M ₂	11.28	—	—	—	10.03	—	9.52	8.87	—	—
M ₃	9.52	—	—	—	—	—	—	—	—	—
下顎										
I ₁	—	—	—	—	5.33	5.11	5.37	5.49	—	—
I ₂	—	—	△	—	6.15	6.31	6.50	—	—	—
C	—	—	7.37	7.36	7.54	7.67	7.53	7.43	—	—
P ₁	—	8.15	6.64	—	7.59	7.62	7.09	7.24	—	—
P ₂	—	—	7.03	—	8.79	8.08	7.66	7.57	—	—
M ₁	—	△	—	—	11.66	11.92	11.38	11.32	—	—
M ₂	—	12.26	—	11.20	11.86	11.55	11.10	10.92	—	—
M ₃	—	12.66	—	—	12.30	12.03	—	—	—	—

△：計測不可能

表 8 続き

	水落 SD-23 不明		水落 SD-28 不明		水落 SD-35 不明		水落 SD-39 不明		水落 SD-21-1 小児	
	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左
上顎										
I ₁ (di ₁)	△	△	—	—	—	—	—	—	△(-)	△(-)
I ₂ (di ₂)	△	△	△	—	—	—	6.71	—	△(-)	△(-)
C(dc)	8.13	△	△	—	—	—	8.81	—	△(-)	△(-)
P ₁ (dm ₁)	8.79	△	—	—	—	—	—	—	△(-)	△(-)
P ₂ (dm ₂)	8.68	8.71	—	8.72	—	—	—	—	△(-)	8.59(10.36)
M ₁	—	12.43	—	—	—	—	—	—	—	11.90
M ₂	—	12.07	—	—	—	—	—	—	—	—
M ₃	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
下顎										
I ₁ (di ₁)	△	—	—	—	—	—	—	—	△(-)	△(-)
I ₂ (di ₂)	△	△	—	—	—	—	—	—	△(-)	5.88(-)
C(dc)	7.34	△	△	—	—	6.84	—	—	7.46(-)	△(-)
P ₁ (dm ₁)	7.23	7.20	8.87	—	—	7.19	—	—	△(-)	7.60(-)
P ₂ (dm ₂)	8.15	△	—	8.84	—	7.42	—	—	△(-)	△(10.75)
M ₁	11.16	10.73	—	—	—	—	—	—	11.32	11.27
M ₂	10.74	10.48	—	—	—	—	—	—	—	△
M ₃	10.21	10.06	—	—	—	—	—	—	—	—
上顎										
I ₁ (di ₁)	8.29	△	—	—	—	—	—	—	8.20(-)	△(-)
I ₂ (di ₂)	6.60	6.67	6.59	—	—	—	7.75	—	△(-)	△(-)
C(dc)	7.58	△	8.22	—	—	—	8.27	—	△(-)	△(-)
P ₁ (dm ₁)	7.15	△	—	—	—	—	—	—	△(-)	△(-)
P ₂ (dm ₂)	6.57	6.46	—	6.64	—	—	—	—	△(-)	6.63(9.04)
M ₁	—	10.60	—	—	—	—	—	—	—	11.03
M ₂	—	10.20	—	—	—	—	—	—	—	—
M ₃	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
下顎										
I ₁ (di ₁)	5.67	—	—	—	—	—	—	—	△(-)	5.41(-)
I ₂ (di ₂)	6.15	6.06	—	—	—	—	—	—	5.99(-)	6.04(-)
C(dc)	6.82	6.81	7.45	△	—	6.45	—	—	6.96(-)	△(-)
P ₁ (dm ₁)	7.03	6.98	7.19	—	—	6.55	—	—	△(-)	6.97(-)
P ₂ (dm ₂)	7.14	△	—	6.93	—	6.46	—	—	△(-)	△(9.44)
M ₁	12.21	12.20	—	—	—	—	—	—	12.03	11.95
M ₂	11.84	11.64	—	—	—	—	—	—	—	△
M ₃	10.59	11.09	—	—	—	—	—	—	—	—

△：計測不可能

表 9 齲蝕(Caries of the teeth)

		水落 SD-15 男性		水落 SD-27 男性		水落 SD-36 男性		水落 SD-33 女性		水落 SD-22 不明	
		右	左	右	左	右	左	右	左	右	左
上顎	I ₁	/	/	/	/	○	○	○	○	/	/
	I ₂	/	/	/	/	1	○	○	○	/	/
	C	/	/	/	/	○	○	○	○	/	/
	P ₁	/	/	/	○	○	○	○	○	/	○
	P ₂	/	/	/	/	○	○	2	○	/	/
	M ₁	/	/	/	/	○	○	○	○	/	/
	M ₂	2	/	/	/	○	/	○	○	/	/
	M ₃	○	/	/	/	/	/	/	/	/	/
下顎	I ₁	/	/	/	/	○	/	2	○	/	/
	I ₂	/	/	/	/	○	○	○	/	/	/
	C	/	/	/	○	○	○	○	○	/	/
	P ₁	/	○	/	/	○	○	○	○	/	/
	P ₂	/	/	○	/	○	○	2	○	/	/
	M ₁	/	3	/	/	○	○	2	1	/	/
	M ₂	/	1	/	2	○	○	1	1	/	/
	M ₃	/	○	/	/	○	○	/	/	/	/

		水落 SD-23 不明		水落 SD-28 不明		水落 SD-35 不明		水落 SD-35 不明		水落 SD-21-1 小兒	
		右	左	右	左	右	左	右	左	右	左
上顎	I ₁ (di ₁)	/	/	/	/	/	/	/	/	○(/)/(/)	
	I ₂ (di ₂)	/	/	/	/	/	/	/	○	/(/)/(/)	
	C(dc)	○	/	/	/	/	/	○	/	/(/)/(/)	
	P ₁ (dm ₁)	○	/	/	/	/	/	/	/	/(/)/(/)	
	P ₂ (dm ₂)	○	○	/	/	/	/	/	/	/(/)/(/)	○
	M ₁	/	○	/	/	/	/	/	/	/	○
	M ₂	/	○	/	/	/	/	/	/	/	/
	M ₃	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
下顎	I ₁ (di ₁)	/	/	/	/	/	/	/	/	/(/)○(/)	
	I ₂ (di ₂)	/	/	/	/	/	/	/	/	○(/)○(/)	
	C(dc)	○	/	/	/	/	○	/	/	/(/)/(/)	
	P ₁ (dm ₁)	○	○	/	/	/	○	/	/	/(/)/(/)	
	P ₂ (dm ₂)	○	○	/	/	/	○	/	/	/(/)/(/)	○
	M ₁	○	○	/	/	/	/	/	/	○	○
	M ₂	1	1	/	/	/	/	/	/	/	/
	M ₃	○	○	/	/	/	/	/	/	/	/

[1~4: present, ○: absent, /: unobservable]



頭蓋 (Skull)



四肢骨 (Limb bones)

水落SD-27 (男性・熟年)

(Mizuotoshi skeleton SD-27, mature male)



頭蓋 (Skull)



四肢骨 (Limb bones)

水落SD-36 (男性・熟年) (Mizuotoshi skeleton SD-36, mature male)

小林市市化財調査報告書 第5集

水 落 遺 跡

発行年月日 平成4年3月31日

編集発行 小林市教育委員会

印 刷 金子印刷 小林市仲町2-2 TEL23-2253